

【渋川女子高等学校アメリカ研修 3日目報告書】

研修3日目。澄んだ青空の広がる朝でしたが、空気はひんやり。生徒たちは少し肩をすくめながらも、いよいよ本格的に始まる“語学学校生活”へ向けて気持ちを引き締めている様子でした。Kaplan の授業は、事前に受験したプレイスメントテストによって CEFR（国際基準の語学レベル指標）に沿ってクラスが振り分けられます。CEFR は A1（入門）から C2（熟達）までの6段階で、テストの結果 A1～B2+ の幅広いレベルに配置されました。最初のオリエンテーションでは、スタッフの Megan が学校の設備、生活ルール、授業進行、クラス分けの基準について丁寧に説明してくれました。また、その手には色とりどりのドーナツが。彼女から配られた“モーニングドーナツ”を受け取った渋女生たちは、遠慮がちにドーナツを手を持ったままメモをとり、説明が終わってからようやく「美味しい…！」と小さく笑顔を見せていました。

休憩後はいよいよ初めての授業。月曜日は自己紹介を中心に行われる日で、今日が初日の生徒たちは“完全新入り”。クラスにはすでに数週間～数ヶ月通っている留学生もいて、そこへ飛び込むのは簡単ではありません。それでも渋女生は、自分の言葉で日本を紹介したり、先輩留学生に助けてもらいながら話を続けたり、あるいは想像以上に自由な雰囲気に対し戸惑ったりしながら、与えられた環境で精いっぱい挑戦していました。英語のスキルを学ぶだけでなく、国籍も文化も異なる仲間と学ぶということが、まさに“新しい価値観を受け取る時間”となったようです。

午後は フリーダムトレイル (Freedom Trail) の本番に出発しました。まずは金色のドームが輝く マサチューセッツ州会議事堂 (Massachusetts State House)。アメリカ独立後の政治の中心として建てられた建物で、その存在感に生徒たちは足を止めて見上げていました。

続いて、アメリカ最古の公共公園 ボストン・コモン (Boston Common) を通り抜け、歴史的な人物たちが眠る グラナリー墓地 (Granary Burying Ground) へ。そこには、アメリカ独立の象徴ともいえるサミュエル・アダムズやジョン・ハンコック、ボストン虐殺事件の犠牲者が眠っています。その後は、ボストン茶会事件で知られる市民運動が行われた オールド・サウス集会所 (Old South Meeting House)、独立宣言が読み上げられた 旧州議事堂 (Old State House) を巡りました。歴史スポットでは英語で質問を投げかける姿が見られましたが、移動中は日本語で談笑したり、写真撮影に夢中になったりと、まだまだ“日本モード”の抜けない部分も。けれど、それも含めて初日の学びです。「先生に言われたから質問する」のではなく“自分は何を学びたいのか、今ここで何を感じるべきなのか”その主体性を少しずつ育てていければと思います。

明日からの授業では、今日見たボストンの姿が英語の学びにどうつながっていくのか。彼女たちがどんな成長を見せてくれるのか楽しみです。





